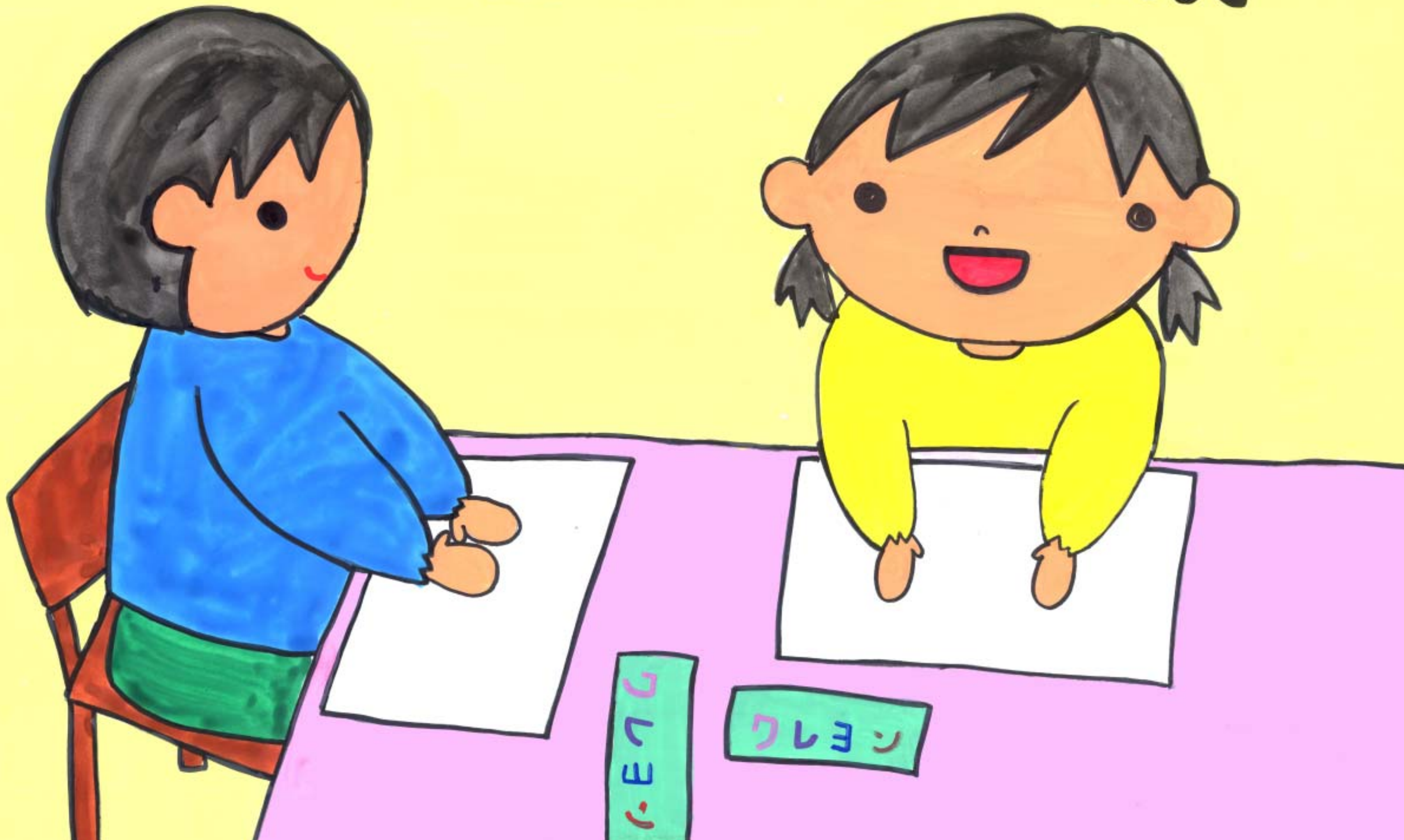
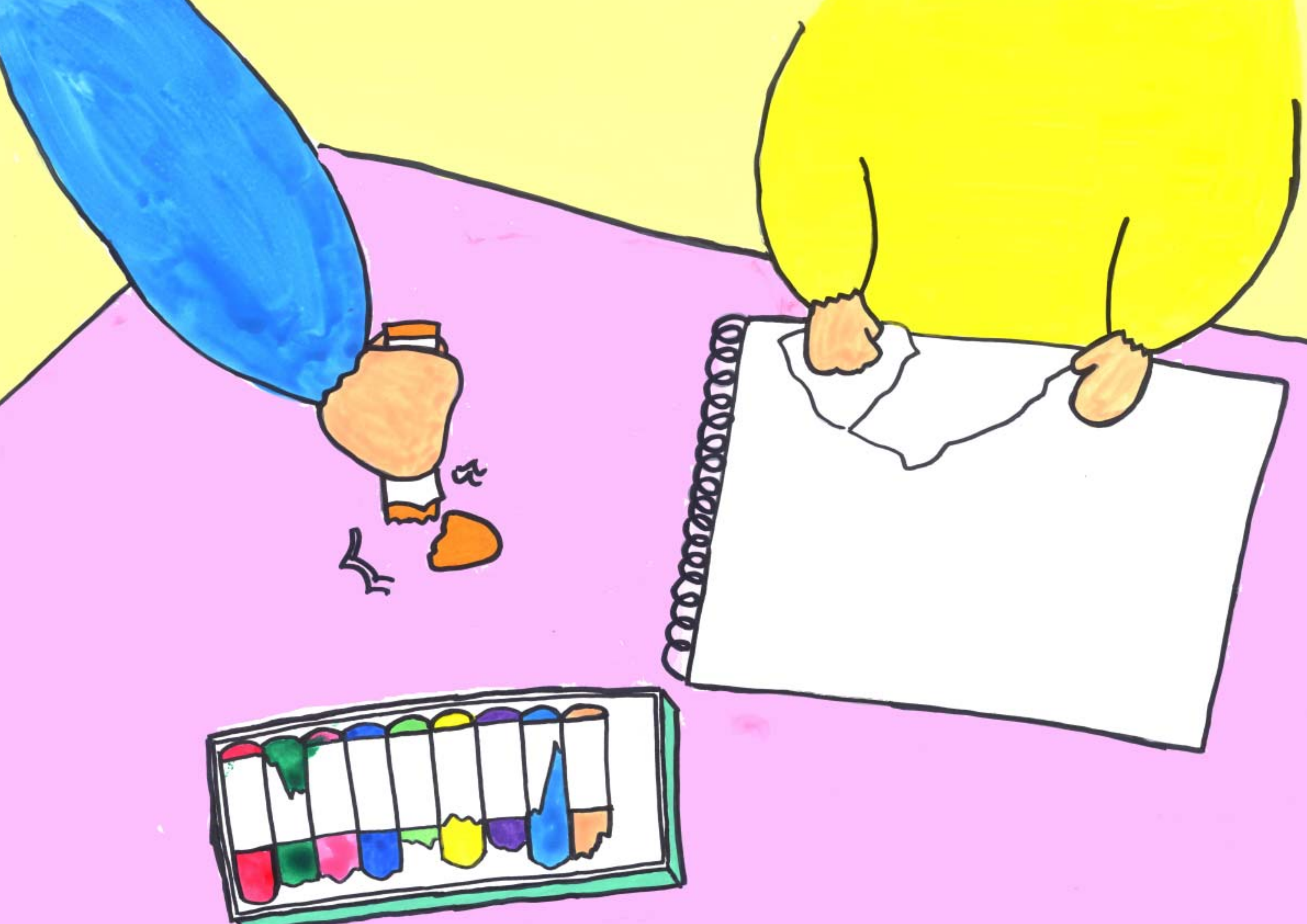


# クレヨンたちの涙













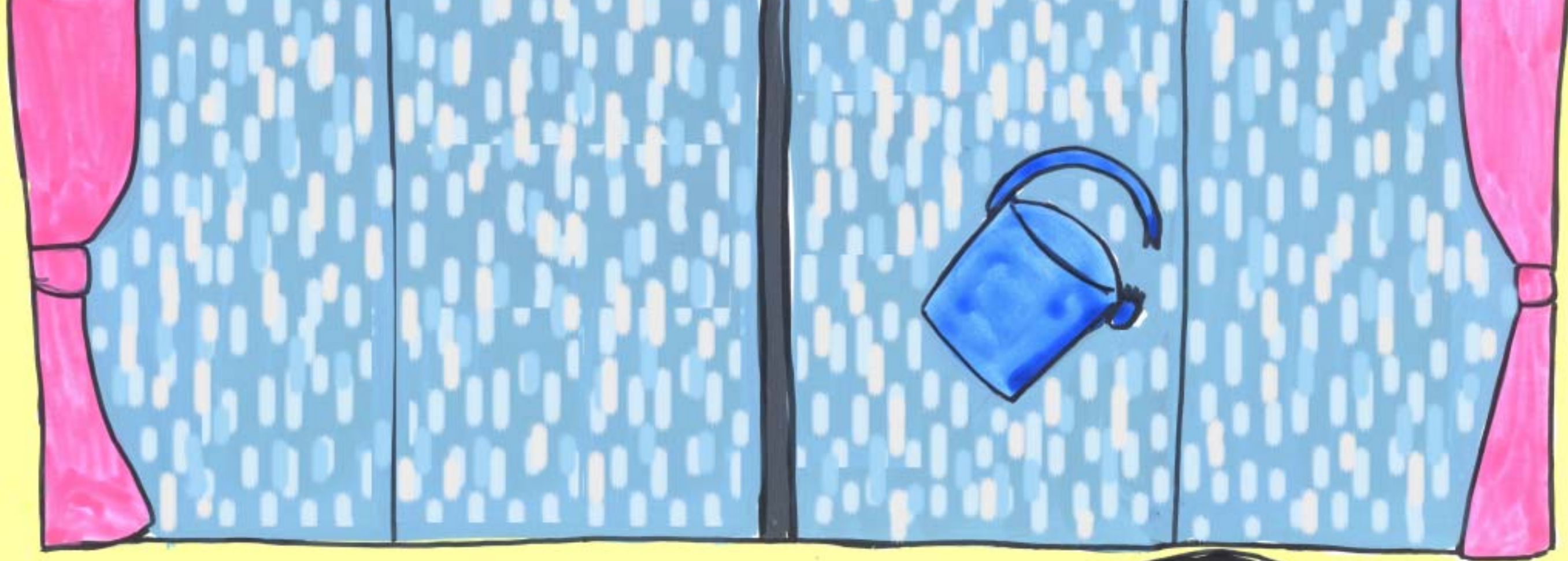




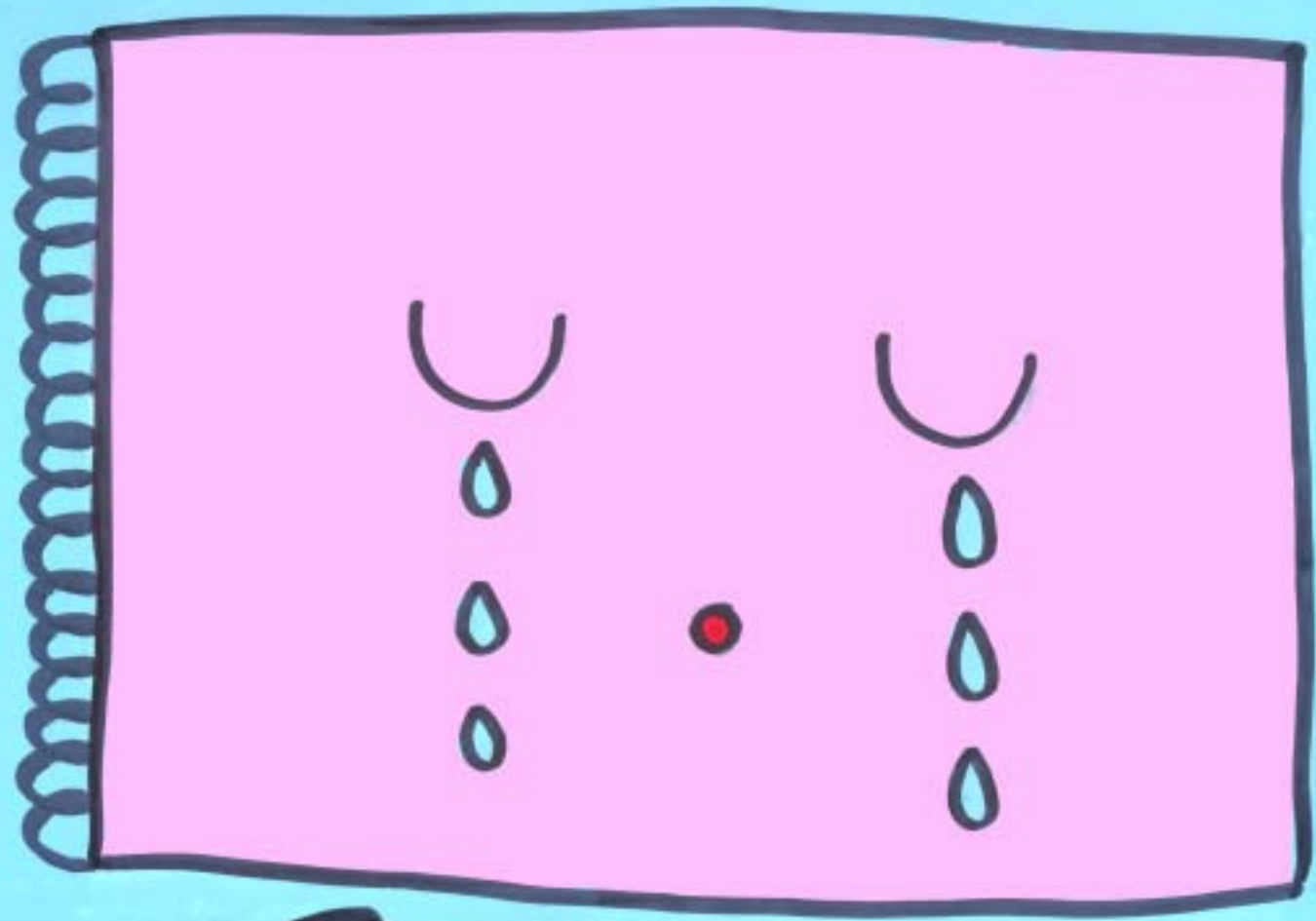
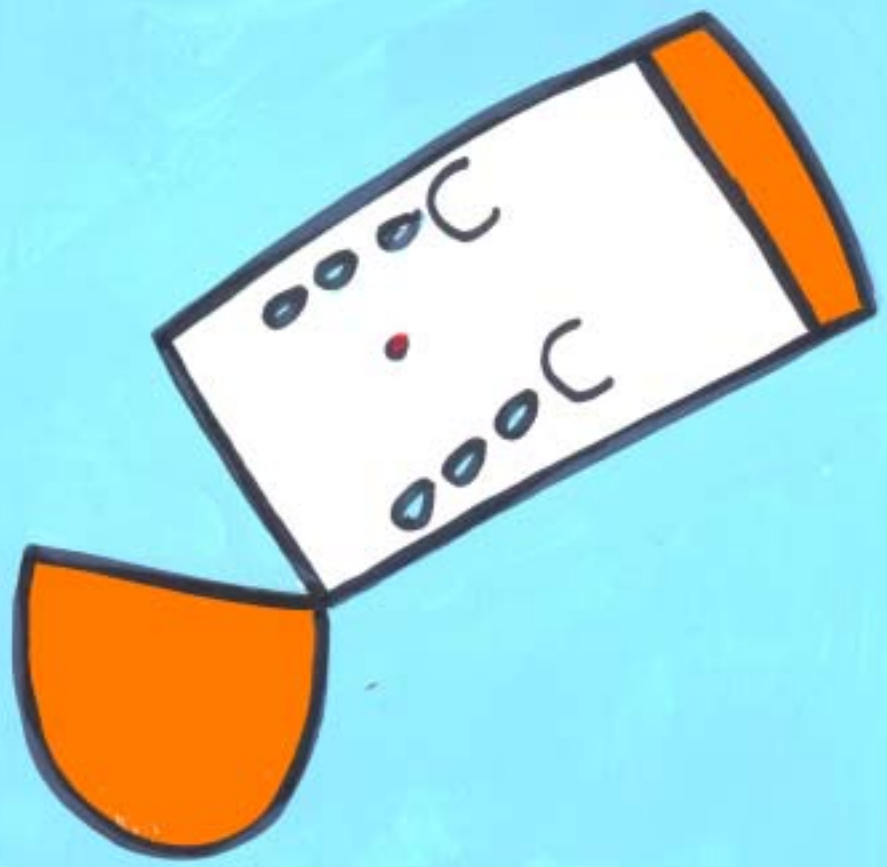




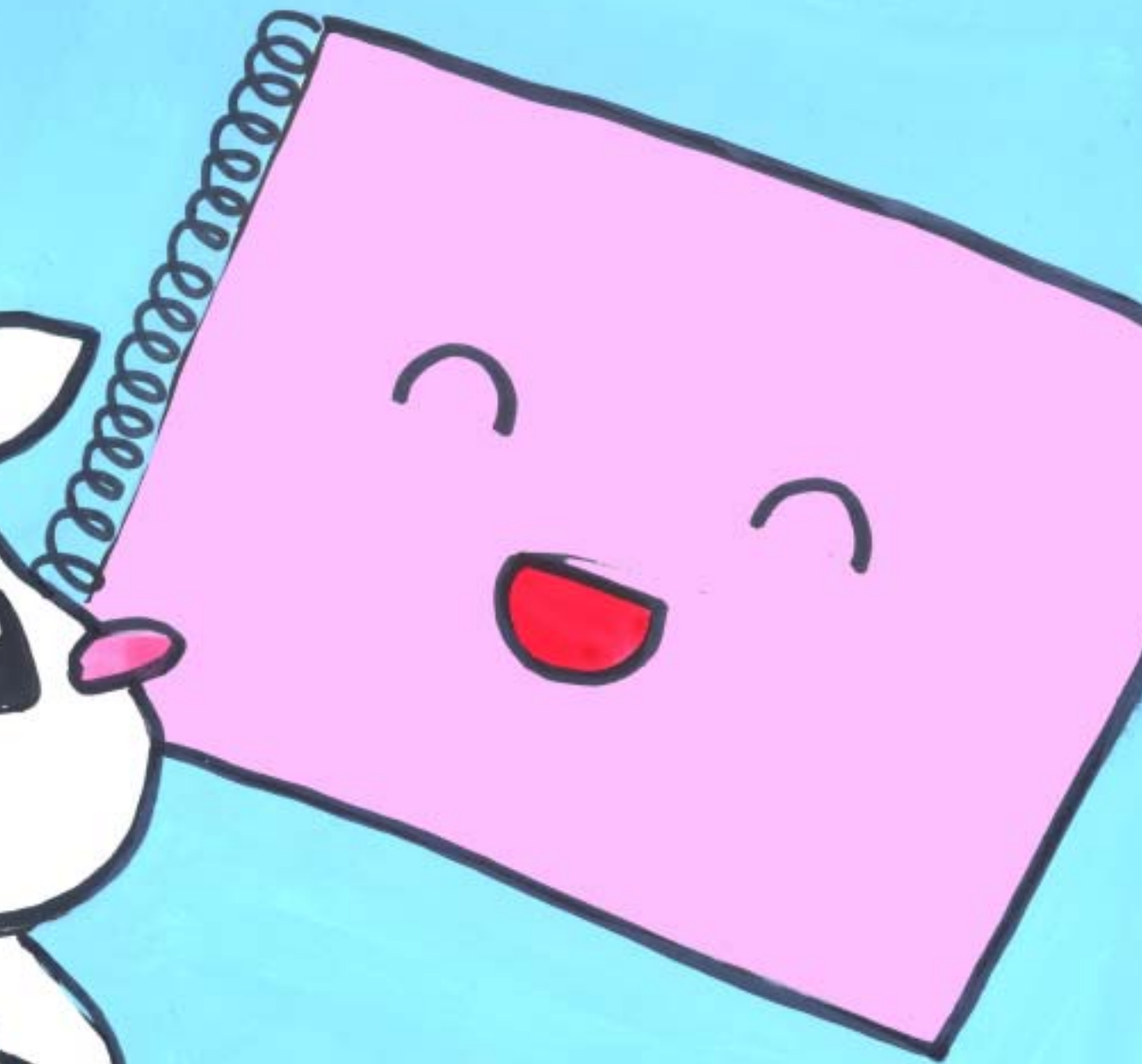


















クレヨンたちの涙

ここは『ニコニコ学園』。  
お部屋の中で、

みんなでお絵かきをしています。

ごうくとみれいちゃんも

楽しそうに、お絵かきをしています。



ポキッ！

「あっ、クレヨンが折れちゃった。

他の色も少し短くなってきたから、

もういらない！

新しいものを買ってもらおうとー！」

ごうくんがいました。

ビリッ！

「お絵かき帳が破けちゃった。

残りも少ないし、

捨てちゃおうかな！」

みれいちゃんがいました。

あらあら2人とも、

まだ使えるのに……



2人<sup>ふたり</sup>は、お絵<sup>え</sup>かきをやめて、

お外<sup>そと</sup>へ遊<sup>あそ</sup>びに行<sup>い</sup>ってしま<sup>い</sup>ました。

ごうくんは、三輪<sup>さんりんしゃ</sup>車で遊<sup>あそ</sup>びます。

みれいちゃん<sup>すな</sup>は、砂<sup>あそ</sup>遊<sup>び</sup>び。

2人<sup>ふたり</sup>とも楽<sup>たの</sup>しそ<sup>う</sup>。



三輪車さんりんしゃで遊あそんでいたごうくんに  
みれいちゃんこえが声をかけました。

「ごうくん、一緒に砂場すなばで遊あそぼうよー！」

「ごうくん、いいよ。」  
三輪車さんりんしゃを投なげ出だして、

お片づかたけもしないでそのままです。



ふたり  
2人は、仲良く砂山をつくって  
遊んでいましたが……。

みれいちゃんの持っていた  
バケツがほしくなったごうくんが  
「ちよっと貸してー。」  
と引っぱりました。

「まだ、まだ。」  
みれいちゃんは、  
譲ろうとしません。

バリッ！

大きな音がして、

バケツが壊れてしまいました。

「あーあ、壊れちゃった。

私知らない。」

「ぼくだって、知らないよ！」

と 行って、壊れたバケツを

そのままにして、

2人はお部屋に

入ってしまった。



お昼<sup>ひる</sup>ごはんを食<sup>た</sup>べていると、  
お外<sup>そと</sup>は雨<sup>あめ</sup>が降<sup>ふ</sup>ってきました。  
おなかがいっぱいになった  
2<sup>ふたり</sup>人は、なんだか眠<sup>ねむ</sup>くなつて  
ウトウト・・・。

シクシク、シクシク……  
どこかで誰かが泣いています。

それは、「もういらない」といわれた  
クレヨンや捨てられたお絵かき帳、  
壊れたバケツ、雨にぬれた三輪車たち  
だったのです。

みれいちゃんは聞いてみました。

「みんな、ぶじつ泣いているの？」

するとクレヨンたちは

「わたしたち、

まだまだ使えるのに……」

と 泣いています。

壊れたバケツと三輪車たちも

「みんなで使うものだから、

大切に使うほしいのに……」  
そういつて、シクシク泣いています。



そこにゴミゼロの国から来たリーちゃんが  
現れて「いいいました。」

「そうだよね。クレヨンもお絵かき帳も  
まだまだ使えるよね。バケツや三輪車だつ  
て、乱暴にしなければ長く使えるのに。  
新しいものをどんどん買ってもらうのでは  
なく、みんなが今持っているものを大切に  
使ってほしいな！」

そうすれば、ゴミになるものが減るし、  
クレヨンたちも喜ぶよ。」

「うん、わかったよ！」

「いめんね。これからは大切に使うね。」

2人の言葉に、リーちゃんはうれしそうに  
「お友だちにも教えてあげてね。  
約束だよ！」

それじゃ、さよなら。」  
と、いい、ゴミゼロの国へと  
帰っていきました。

ウトウトしていた

ごうくんともみれいちゃん。

パツと起き上がって、

さっそくお絵かきの道具を整理したり、

三輪車を片付けて、壊れたバケツも

先生にいつて直してもらいました。

そして、お友だちにも

この不思議な出来事を

教えてあげました。

ごうくんやみれいちゃん、

お友達みんなも

きっとこれからものを

大切に使うことができることでしょう。

みんなも、ごうくんやみれいちゃん達の

ように、ものを大切に使うてね！

おしまい

制作  
協力

葛飾区環境部リサイクル清掃課・清掃事務所  
日の出保育園